

重本虫撰



2006-W01

喜多川歌麿画

天明八年正月收

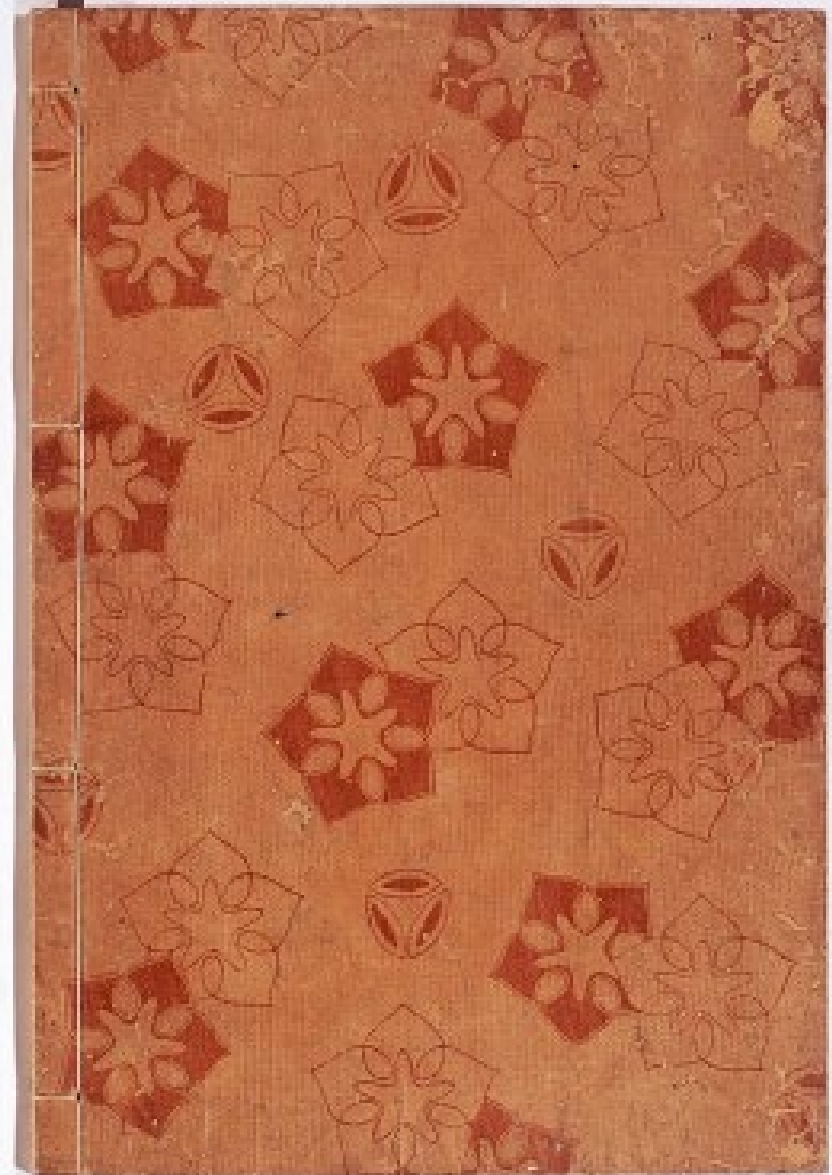
歌麿が絵本朝まあるのち、此の虫撰
と稱す彼が寫すところあやむるも、而も影
偶ふにまゐるものなり。まゐる石燕の姿又しも
まゐる所にて、且つ次第の情をもあはる。然る
竊ふべし。此書あはるも初摺本なるべし。取
りもくも、底つとて、觀望の樂み盡さず
かな。此はふべし。

昭和己卯四月甲申

井上松雅







りふあんぐさすはまねおき
すくまのきうん例のいれ
あちうしあまあふ
ふれあきしうたけに
隅のうききうきうき
中あねんつりいさし
さあねんあき酒妓
いあねんあきあき
あねんあきあき
あねんあきあき



蜂

尻焼猿人

毛虫

四才者

いふは蜂のきれあふえやうはーきををみへつあらん
 もさつていふやうにさうしてつてきみあふにさうしてあけ

馬遊虫

唐の橘

おろしあひふりてはるをかく君んのまゝのうへへ

むく

唐の橘

おろしあひふりてはるをかく君んのまゝのうへへ

唐の橘





けら

耶奈は波良年加布

あゝふくらつて虫や
いふせの

あえ乃ちやふ

うしろと

さみむ

桂眉住

う一人とさひきり

きれう

うみり

名しれ
能うれ





蝶

稀年成

夏のるは蝶も花と吸くも恋しき人乃花のやうひる

蝶蛉

一富士二鷹

人こそあはれむいともあはれふはふはあはれやういともあはれ

蛇

紀定丸

芋虫

深つ橘丸

芋のきい乃蛇とや人のいふんきくうみむるもきねと
いも虫と似たりやくこころくとくねちささき乃小蒲虫





ひらりー

百喜齋森角

人目よりちりちりこのまに抱つてせりあまはひくく

くも

つり光

ふんくをちりちりくはやく果へまひくねる

くものまひ



赤蜻蛉

朱樂菱江

まのふりやうやうとてね赤蜻蛉やのちあひ

瘦ひこけりも

いふこ

新端杉丸

まのふりやうやうとてね赤蜻蛉やのちあひ
うき



地

千枝鼻元

かきおろしみるゝと

ちきほふ

つゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

とつけ 関金酒船

きりりりりりりりりりり

まゝとつ

きりりりりりりりりりり

這きん





笠虫

立花裏也

晴れあす西ハミヤウウウウ
あすあすのうれいむ

兜虫

唐来三和

意志あそ兜虫ともありぬー
あついの緒さくまれさくー 乃ハ



蝸牛

ふ利列主

ちれやうぬのやまかいつうぬろくとねのやうん

變虫

貸か古奈

うまき女に似るうまき虫あれちうん

うんきやかく





ヨシキリ

金糸切

さのこは、あちこちとまわつて、あちこちへ入る。耳のある世なり

浮

三浦杉門

うき人のこころは、あちこちとまわつて、あちこちへ入る。耳のある世なり





蛙

宿を飯草

人つゝにくみと首と

かりけり

かりきれつらん

あらまきと

うさ

こひじ

小笠原友は

あられともいふ

まゝの

こひじ

こゝろゝあきれ

まゝの

床



鳥之部
獸之部
魚之部

喜多川歌麿筆

宿屋飯盛撰

右近口板付題板元と云ふ字あり
方板と銘あり然れども銘は
板元、法屋とあり

天明戊申正月

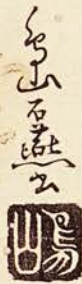
通油町耕耨堂

萬屋重三郎

目録

心すをうー筆小書法を畫に画しりて
今の人奇唐々著を中れすは字も是
の画あり。奇子如音物の中細あり。そ
戯れ秋津虫を聚きし。こく碎鏝を
常ふのせむて。余をの。中。そすは
む。こ。こ。を。恐。れて。あ。ま。さ。ひ。い。し。め。小。
今の筆筆減り業の徳をう。かせし。也。

玉虫のけやとうろひ古画を原多車に
 向ふ埤娘の鎌やきて蛭蛸の七と穿ちその
 さしをうけきいんと梅やれぬまゝし
 濁るらに初い螢の光りふいばとてし
 氣のあはれを方と儲志の相寄入ふふ
 巧巧藤一家う刀い梅本ふりてを記を
 あやむりせよとらふふうや
 天明やむの冬



天明新鐫

古今は歌袋

宿屋飯盛巻 彩色摺巻 全二冊

四方先生著

狂詩選諺解

中本全一冊

天明新鐫

東都曲狂歌文庫

彩色摺 全一冊

狂歌才藏集

四方亦良撰

全二冊

四方のあり

四方亦良の狂歌集

全二冊

狂歌鐫

風調とありしひれを勝り

全一冊

狂歌鐫

風調とありしひれを勝り

全一冊

狂歌鐫

風調とありしひれを勝り

全一冊

狂歌鐫

風調とありしひれを勝り

全一冊

狂歌鐫

風調とありしひれを勝り

全一冊

書肆

東都本町筋北三八町目通油町

萬屋重三郎梓